

1/ ポートフォリオ



金藤 みなみ

KINTO Minami

金藤 みなみ

1988 年徳島県生まれ、神奈川県在住。神奈川県にて制作。

#### > Education

2017 年 ゲンロン カオス＊ラウンジ 新芸術校 上級コース 修了

2013 年 多摩美術大学 大学院 美術研究科博士課程前期過程 修了

2013 年 弘益美術大学校 芸術学部絵画学科交換留学プログラム（韓国、ソウル）

2011 年 女子美術大学 芸術学部絵画学科（洋画）卒業

#### > Awards and Grants

2016 年 トーキョーワンダーシード 2016 入選

2015 年 シブカルスター誕生祭 カップ師匠賞（遠藤一郎 選）受賞

2015 年 the Katzman scholarship for The league Residency at VYT スカラシップ 獲得

2015 年 第十八回岡本太郎現代芸術賞 入選

2012 年 大館／ゼロダテ ゼロ展 入選（中村政人 選）

2011 年 女子美術大学加藤成之記念賞、女子美術大学美術館賞

#### > Solo Exhibitions

2018 年 KINTO Minami solo exhibition / dongsomun, Seoul Korea

2013 年 「黄金町車道ワーク」（2013 年 1 月 7 日 -20 日 mujikobo[ 神奈川 ]）

2013 年 「THE DOUBLE KISS すみだがわ キスする ふたつ」（2013 年 9 月 21 日 -11 月 10 日 あをば荘 [ 東京 ]）

2011 年 第三回『新しい眼』『金藤みなみ 展』（2011 年 8 月 22 日 -27 日 銀座ギャラリー女子美 [ 東京 ]）

#### > Selected Group Exhibitions

2020 年 「芸術ハカセは見た！～徳島のひみつ～」展（徳島市徳島城博物館 [ 徳島 ]）

2019 年 TAV GALLERY 5th Anniversary Exhibition 「MID CORE」（TAV GALLERY [ 東京 ]）

2019 年（企画）「金藤みなみのじゃじゃ馬ならし」（画廊跡地 [ 東京 ]）

2019 年 「ぬいぐるむ！」（新宿眼科画廊 [ 東京 ]）

2017 年 「DMZ（軍事境界線）芸術祭 2017」（DMZ [ ハッチョン / 韓国 ]）

2017 年 「かわる うつろう 展覧会。」（GALLERY X BY PARCO [ 東京 ], シブカル祭 2017。イベント内展覧会）

2017 年 カオス＊ラウンジ「反魂香－再演」（西方寺 [ 東京 ]）

2016 年 「イスラエルから来たコロッケ」（ナオナカムラ [ 東京 ]）

#### > Performance Programs

2019 年 「白羽の矢」（Spiral [ 東京 ], 「SICF PLAY」）

2017 年 「みなみと遊女の本当の浄土 新宿聖地巡礼ツアー」（東京）

#### > Film screenings

2015 年 金藤みなみ映像作品上映会「あ・る・く」（2015 年 4 月 4 日（土）－4 月 5 日（日） TAV GALLERY [ 東京 ]）

2015 前橋映像祭（弁天町 [ 群馬 ]）

KINTO Minami

b.1988 Tokushima prefecture, Japan. Lives and Works in Kanagawa, Japan

> Education

2016 Graduated Genron chaos\*lounge new art school, high level course, Tokyo, Japan

2013 MFA, Oil Painting Dept. Tama Art University, Tokyo, Japan

2012 Studied as an Exchange student Hongik University, Seoul, Korea

2011 BFA, Oil painting Dept. Joshibi University of Art and Design, Japan

> Awards and Grants

2016 Selected for Tokyo wonder seed 2016 by Tokyo wonder site

2015 Winner of Shibuya-Culture Festival Kappa Shishou(Ichiro Endo) art prize, dig up the star 2015

2015 Winner of Award the Ruth Katzman Scholarship for the League Residency at VYT in New York, U.S.

2015 Nominated for Taro Okamoto Prize

2012 Nominated for zarodate/odate Prize by Masato Nakamura

2011 JOSHIBI Art Museum Yoshiyuki Kato commemoration prize,the Joshibi art museum prize

> Solo Exhibitions

2018.11 KINTO Minami solo exhibition / dongsomun, Seoul Korea

2013 “THE DOUBLE KISS:The walk of road in Sumida” awobaso,Tokyo Japan

2012 “KOGANECHO SHADOW WORK:The walk of road in Koganecho” mujikobo ,Kanagawa Japan

2011 “Joshibi-New-eye” Ginza Gallery Joshibi,Tokyo Japan

> Selected Group Exhibitions

2020.1 “Dr. ART witnessed! The exhibition of the secret of Tokushima” , TOKUSHIMA CITY TOKUSHIMA CASTLE MUSEUM, Tokushima, Japan

2019.7 TAV GALLERY 5th Anniversary Exhibition "MID CORE", TAV GALLERY, Tokyo, Japan

2019.5 Planning “KINTO Minami's the Taming of the Shrew” , Garou Atochi, Tokyo

2019 Group Exhibition “Nuigurumu!” , Shinjuku Ganka gallery, Tokyo, Japan

2017.10 Group Exhibition "2017 DMZ International Civilian Control Zone"/DMZ,Korea

2017.10 Group Exhibition "Shibu-karu-Matsuri"/galleryX by PARCO,Tokyo Japan

2017.3. Group Exhibition " 反魂香一再演 Han-Gon-Koh-Replay" / 西方寺 Sai-Ho-Zi,Tokyo Japan

2016.10, Planning “Croquette came from Israel” , /naonakamura,Tokyo Japan

> Performance Programs

2019.5 SICF: Spiral Independent Creators Festival PLAY part joined as an performing artist, Spiral, Tokyo

2017,performance the real pure land for Minami and Yujo, Shinjuku Tokyo

>Film screenings

2015 “Minami Kinto screening, w-a-l-k” TAV GALLERY, Tokyo Japan

2015 Maebashi media festival,Shopping street of Maebashi-Benten,Gunma-Prefecture, Japan



## マスクが誘惑する

2010 年、真っ白な医療用マスクが、無造作に道端に打ち捨てられていた。口蹄疫がニュースになっていた頃である。汚され、見向きもされないマスクのある風景が、私の心の中に強く残っている。

私は、あの誘惑がどこから来るかについて、いつも考えている。

まず、「あるべき場所にある物の誤配」による魅力であると仮定する。物語・職業・ファッション等に紐づいた固有の先入観を、見立てや組み換えによって誤配することには、革命に似た爽快感や背徳感がある。

また、モノや動きには普遍的・歴史的・演劇的な意味があり、どのように配置するかによって、全く異なる意思を伝えることができる。マスクが透明なビニール袋に入れられ、柵にでもひっかけられていれば、ずいぶん意味が違おうだろう。翻って見れば、マスクが道端に落ちているということそれだけで汚されたモノという意味を発する。この配置のコントロールが、パフォーマンスの方法のひとつである。

例えば、私の友人 S に配られたマスクが、家族を守るためのものだとするれば、踏みつけられれば激怒するだろう。しかし、マスクが豊富にあり、むしろトイレトペーパーが不足している時にマスクに糞尿を掬う役割をさせても、S はさして怒らないだろう。S に 2 メートル以上近づけば私は加害者として扱われ、何キロも離れたところから通話をすれば安心感を与えられることだろう。私は、S のことは他人だからわからない。しかし、誤配によって S が何に怒るのがわかる。それらの境界線を踏み越えて、他人の怒りの複雑さに触れたい。

さらに、パフォーマンスはその性質上、身体の変換不可能性を内在し強調しつつも、同時に「全く違う立場の役にあつという間に変身すること」が可能なものだ。だから、与えられた意味を引っ掻き回すポテンシャルを持っている。

…打ち捨てられたマスクが私を誘惑する。場所とモノが持つ意味を強調し、意味をシャッフルする。私は理解できない他者になり、そしてなれないということに近づき、他人の怒りに触れたい。私は決して S になれない。だけど S の権利は守りたい。私は本当の意味で、人権というものに興味があるのだ。

2020.APR.27



Photo by Shinjuku Ganka gallery

2019

トレンチ・パペット

*Trench Puppets*

新宿眼科画廊〔東京〕 インスタレーション

メディウム：タペストリー 2 枚 (1100×1700(mm) each), ぬいぐるみたち, 本 (Erich Paul Remark “西部戦線異状なし”), 白い台座

#### INFO

2019 年 3 月 8 日 (金) - 3 月 13 日 (水)

ディレクション：飯島モトハ

参加アーティスト：雨宮沙月、菊村詩織、金藤みなみ、高橋沙絵、なみきなつみ、柳本悠花

公式ウェブサイト：https://www.gankagarou.com/s201903nuigurumu

「ぬいぐるむ！」展にて発表した作品です。



Shinjuku Ganka gallery〔Tokyo〕 Installation

Medium: 2 tapestries(1100×1700(mm) each), puppets, a book(Written by Erich Paul Remark “Im Westen nichts Neues”) , a white pedestal.

#### INFO

Friday, March 8, 2019 - Wednesday, March 13, 2019

Direction:Motoha Iijima

Participating artists: Satsuki Amemiya, Shiori Kikumura, Minami Kinto, Sae Takahashi, Natsumi Namiki, Yuka Yanagimoto

Official website: https://www.gankagarou.com/s201903nuigurumu

These works were shown at the exhibition "nuigurumu!".



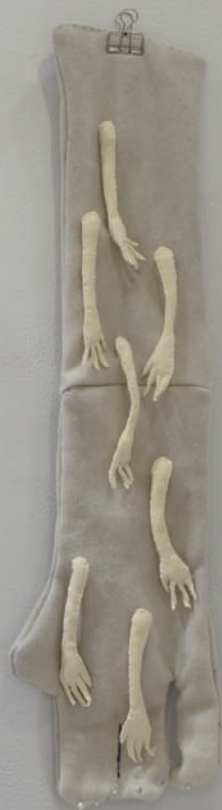






Photo by TOKUSHIMA CITY TOKUSHIMA CASTLE MUSEUM

2020

金藤みなみの鉢かづき姫のパフォーマンス 母の目

*KINTO Minami' s Hachi-Kaduki-Princess performance My mom eye' s view*

徳島市立徳島城博物館 [ 徳島 ] パフォーマンス (30:00min.)

メディウム：オストリッチ羽のついた赤い felt のオブジェ  
(1000×1000×700(mm)), ファブリック、フェイクファーの布  
(2100×1600(mm))、その他。

#### CREDIT

- Video

パフォーマンステキスト by KINTO Minami

カメラ撮影 by misonikomioden, NIKI Ryota, Tokushima Castle Museum

クルー KINTO Mayumi, Parcokinoshita, yusasabi-sisters and more.

#### - INFO

2020 年 1 月 9 日 ( 木 ) - 1 月 24 日 ( 木 )

ディレクション：パルコキノシタ ( 美術家 )

参加アーティスト：パルコキノシタ、金藤みなみ、堺友里 (yusasabi)

公式ウェブサイト：

[http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/moyoushimono/R02\\_Dr\\_Arts.html?fbclid=IwAR3TpiUjsmlzginEl2gZl6wlL\\_Z3Xyr1HFzaMbtJDJn66CNbM1F2GpAmizQ](http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/moyoushimono/R02_Dr_Arts.html?fbclid=IwAR3TpiUjsmlzginEl2gZl6wlL_Z3Xyr1HFzaMbtJDJn66CNbM1F2GpAmizQ)

#### - REVIEW

「物語を紡ぎ、文化の変容に立ち会う——四国の二つの展覧会より 橘美貴 (高松市美術館)」

[https://artscape.jp/report/curator/10160457\\_1634.html?fbclid=IwAR151rXDOOhGRV96I2LvYzMDc0A4i59dIB7LQHAyANBLdWrBjSPkp8xEc](https://artscape.jp/report/curator/10160457_1634.html?fbclid=IwAR151rXDOOhGRV96I2LvYzMDc0A4i59dIB7LQHAyANBLdWrBjSPkp8xEc)

主催 無知夢中

「芸術ハカセは見た！～徳島のひみつ～」展にて発表した作品です。

TOKUSHIMA CASTLE MUSEUM [Tokushima] Performance, 30:00min.

Medium: a red felt object with a ostrich feather(1000×1000×700(mm)),  
Fabrics, fake-fur-Cloth(2100×1600(mm)) and more.

#### CREDIT

- Video

Play writing by KINTO Minami

installation and performance by KINTO Minami

camera document by misonikomioden, NIKI Ryota, Tokushima Castle Museum

crew KINTO Mayumi, Parcokinoshita, yusasabi-sisters and more.

#### NFO

2020. JAN. 9th -24th

direction: Parcokinoshita (Artist)

Artist: Parcokinoshita, KINTO Minami, Yuri Sakai (yusasabi)

website :

[http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/moyoushimono/R02\\_Dr\\_Arts.html?fbclid=IwAR3TpiUjsmlzginEl2gZl6wlL\\_Z3Xyr1HFzaMbtJDJn66CNbM1F2GpAmizQ](http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/moyoushimono/R02_Dr_Arts.html?fbclid=IwAR3TpiUjsmlzginEl2gZl6wlL_Z3Xyr1HFzaMbtJDJn66CNbM1F2GpAmizQ)

#### - REVIEW

「Weaving Stories and Attending Cultural Transformation: From Two Exhibitions in Shikoku」 by TACHIBANA Miki (Takamatsu City Museum of Art)

[https://artscape.jp/report/curator/10160457\\_1634.html?fbclid=IwAR151rXDOOhGRV96I2LvYzMDc0A4i59dIB7LQHAyANBLdWrBjSPkp8xEc](https://artscape.jp/report/curator/10160457_1634.html?fbclid=IwAR151rXDOOhGRV96I2LvYzMDc0A4i59dIB7LQHAyANBLdWrBjSPkp8xEc)

Hosted by Muchi-Muchu

These works were shown at the exhibition "Dr. Art witnessed! ~Himitsu in Tokushima~".





Photo by Ryota Niki

## 金藤みなみの鉢かづき姫のパフォーマンス 母の目 2020

### *KINTO Minami' s Hachi-Kaduki-Princess performance My mom eye' s view 2020*

本作は民話『鉢かづき姫』を語り直した作品だ。

「母娘相続」の過程を女性の自立として読み解く方法として、主に刺繍と被り物を用いたインスタレーションとパフォーマンスを行った。

刺繍や被り物では、物語を読み解くために作品を注意深く読み解き、作品の一部として参加し、追いかけていくこととなる。

刺繍とパフォーマンスでは、グリム版『シンデレラ』を参照し、相似する部分を際立させ、「娘が一人立ちするきっかけである水辺」を指摘する。

当日、performanceの前に5分ほどの語りが挟まれた。鉢かづき姫のあらすじや、時代による表現方法や強調点の違い、そしてパフォーマンスの動きを語りで説明した。語りの中では坪内逍遙版の戯曲や、折口信夫の解釈を紹介した。また、江戸時代に描かれた鉢かづき姫の絵が俯瞰であることから、「母の目線（鳥瞰図）」なのではないかという解釈の刺繍作品や、折口信夫の対談をヒントに河童のモチーフで姫を捉えた刺繍作品が展示されていた。

パフォーマンスの流れは以下である。

母の目が描かれた刺繍を引きずり、上から眺める一庭へと鉢をかづいて歩いていく（その際目が追いかけてくる）一庭の水場で自己の姿を認める一鉢を脱ぎ、先ほどとは打って変わった足取りで軽快に走る。

本パフォーマンスを含む展評「物語を紡ぎ、文化の変容に立ち会う——四国の二つの展覧会より」で橋美貴（高松市美術館）が指摘するように、現代では語りなおす方法は多岐にわたる。物語という没入感を伴うものを体験するために、物語の生成過程を提示し、点在させることで、客観性をも求められる。主観と客観の両立こそが、物語をドライブさせるために必要なものではないだろうか。

本作のモチーフとなる民話との出会いは8年前にさかのぼる。まだ当民話を知らなかった時、「赤い痛みを三角だと感じる」という完成から、『ACHELA』という作品を制作した。その作品を発表した際、鑑賞者に「鉢かづき姫に似ているね」と相似性を指摘されたことが、本作のインスタレーション元である民話『鉢かづき姫』との出会いのきっかけだった。

昔から伝わる民話が、様々な媒体を経て後世に伝えられる際、様々な解釈があっただろう。その様々な形を点在させて再度構築することで、「母娘相続」「娘が一人立ちするきっかけである水辺」などの新たな解釈を提示するパフォーマンスとなった。

This work is a retelling of the folk tale "Hachi-Kaduki Hime".

As a way of interpreting the process of "mother-daughter inheritance" as women's self-reliance, I created an installation and performance using mainly embroidery and clothing.

In embroidery and sheathing, the work is carefully read to decipher the narrative, participating and following it as part of the work.

In her embroidery and performance, she references the Grimm version of Cinderella, highlighting the similarities and pointing out "the water's edge as the impetus for her daughter to stand on her own."

On the day of the performance, a five-minute narrative was interrupted before the performance. The narrative explained the plot of Princess Hachikaduki, the different ways of expression and emphasis in different periods, and the movement of the performance. In the narration, he introduced the play by TSUBOUCHI Shoyo and Origuchi Nobuo's interpretation. Also on display were some embroidery works that were interpreted as a "bird's eye view of a mother" because the picture of Princess Hazakaduki painted in the Edo period is a bird's eye view, and some embroidery works that were inspired by a conversation with Nobuo Origuchi and captured the princess with a motif of a kappa.

The performance flow is as follows.

I dragged the embroidery of my mother's eyes, looked at it from above, walked over the bowl to the garden (my eyes followed me as I did so), acknowledged myself at the garden watering hole, took off the bowl, and ran lightly with a different gait than before.

As Tachibana Miki (Takamatsu City Museum of Art) points out in her review of the exhibition that includes this performance, "Weaving Stories and Meeting the Transformation of Culture: From Two Exhibitions in Shikoku," there are many ways to re-tell stories today. In order to experience the immersive nature of narrative, objectivity is also required by presenting and interspersing the process of story generation. Both subjectivity and objectivity is what drives the story, isn't it?

The encounter with the folklore that is the motif of this film goes back eight years. When I didn't know this folktale yet, I created the work "ACHELA" from the completion of "feeling the red pain as a triangle". The inspiration for the film came from the folk tale "Princess Hachi-Kaduki" when an audience member pointed out the resemblance, saying, "You look like Princess Hachi-Kaduki."

There must have been many different interpretations of the folk tales that have been handed down from time to time through various media. The performance presented new interpretations of "mother-daughter inheritance" and "waterfront as an opportunity for daughters to stand on their own" by interspersing and reconstructing these various forms.





Photo by tomosoti

2019

金藤みなみのじゃじゃ馬ならし  
*KINTO MINAMI' s the Taming of the Shrew*

画廊跡地〔東京〕 Video installation

メディウム：刺繍 (1400×1700(mm)), シングルチャンネルビデオサウンド (6:01min. loops.)。

CREDIT

- Video

パフォーマンステキスト by KINTO Minami

カメラ撮影 by tomosoti,

クルー 小林太陽

- INFO

2019年5月1日-8日

企画 小林太陽、金藤みなみ

参加アーティスト 金藤みなみ、小林太陽、ユササビ（堺友里）、Artemisia

選書者 Hajime Saito, Anri Mike, Marguerite (Book Cafe Okamaruto), Yuina Wada, Minami Kinto, Yusasabi(Yuri Sakai)

「金藤みなみのじゃじゃ馬ならし」展にて発表した作品です。

Garo-Atochi [Tokyo] Performance, 30:00min.

Medium: Embroidery(1400×1700(mm)), a single

channel video including the sound, 6:01min., loops.



Photo by tomosoti

CREDIT

- Video

Play writing by KINTO Minami camera by tomosoti crew by Taiyo Kobayashi.

INFO

2019.MAY.1th-8th

Plan KINTO Minami and Taiyo Kobayashi

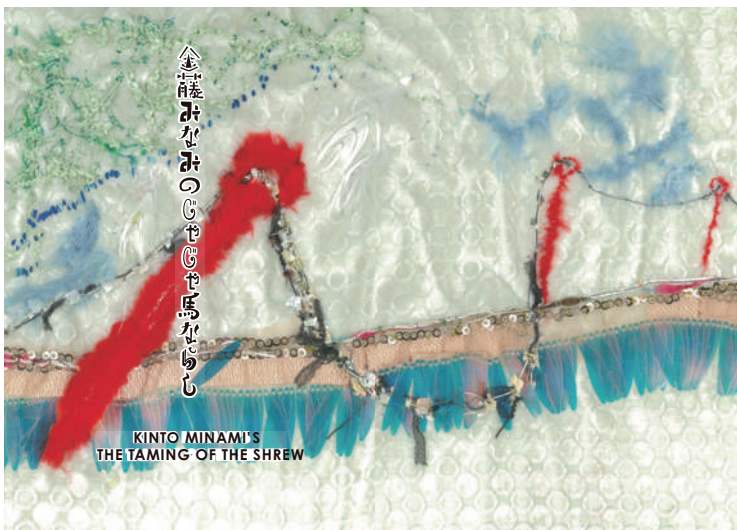
Artists KINTO Minami, Taiyo Kobayashi, Yusasabi(Yuri Sakai), Artemisia

Book selectors Hajime Saito, Anri Mike, Marguerite (Book Cafe Okamaruto), Yuina Wada, Minami Kinto, Yusasabi(Yuri Sakai)

This art work is shown at the Exhibition of “KINTO MINAMI’ s the Taming of the Shrew”



フェミニズムに関するブックカフェを企画・併設した。/ A book cafe on feminism was planned and set up. Photo by tomosoti



本作に関連する小説を執筆し、Zine にした。/ I wrote a novel related to this work and turned it into a zine. Embroidery by KINTO Minami, Edit by Kazuyuki Yamamoto

Photo by tomosoti

#### - ステイトメント

(シェイクスピアの) じゃじゃ馬ならしは劇中劇の構成をとる演劇ですが、劇中劇の外側の話に戻らずに話が終わります。まるで、現実から夢に移行し、夢から現実に戻らずに閉塞してしまったような構成です。私は、劇中劇のカテリーナが、男性が眼差す夢であるだけでなく、あらゆる性の眼差しの先にある夢にもなっていたのではないかと再解釈しました。視覚に自覚的になることで、視覚によって一方的に構築されてきた支配関係を「鬼ごっこ」のように、役割の交換可能性のあるものに組み換えました。

冒頭、顔を隠した人の顔を布越しに手で探るように確かめるシーンがあります。ある人（おそらく妹のピアンカ）がポエティックに「ねえ、お姉様、可愛いって気持ちは何かしら」と可愛さについて問いかける字幕が流れ、可愛さの定義が進むうちに、顔を隠した登場人物たちが、布をとりあって追いかけあう鬼ごっこへと発展します。散乱した布を片付け、その布を結んでやる者がいるなかでも、前は見えないまま、森の中へと皆で歩いていき、エンドロールが流れ映像は終わります。不均衡な状況を、布で包むことによって（しいては皆で不都合をつかみとることによって）より根元的な欲望やエロスに従事させることは、私にとって、アイロニーを含みつつも、真に公平で美しくロマンチックに感じるものなのかもしれません。

#### - The Statement

Shakespeare's "The Taming of The Shrew" is a play that takes the structure of a play, but ends the story without going back to the story outside of the story. It's a composition as if it has moved from reality to dream and closed without returning from dream to reality. I reinterpreted the play's Katerina to be not only a dream that men gaze upon, but also a dream that lies beyond the gaze of all sexes. By becoming self-conscious of the visual, the dominance relationship that had been unilaterally constructed by the visual was replaced by one in which roles were interchangeable, like a "game of tag".

At the beginning of the film, there is a scene in which he makes sure that the person whose face is hidden is probed with his hands through a cloth. As the definition of cuteness progresses, the film evolves into a game of tag with the characters hiding their faces and chasing each other with cloths. We all walk into the forest without being able to see the front, even though there are people tidying up the scattered cloths and tying them, and the image ends with an end roll.

Engaging a disproportionate situation in more fundamental desires and eros by wrapping it in cloth, and thus seizing the inconvenience with everyone, may be, for me, something that feels truly fair and beautifully romantic, even while containing irony.





Photo by tomosi

2018

## The Crying Women

### *The Crying Women*

Dongsomun [Seoul,Korea] パフォーマンスおよびインスタレーション  
 メディウム：タペストリー (1400×1700(mm))

#### CREDIT

Play writing, Installation and Performance by KINTO Minami

Document by tomosi

Cooperation 조정민(CHO Jung-Min), 조준석(CHO Jun-seok), 최수빈(CHOI Subin),  
 강정인(KANG Jung-in), 김지영(KIM Jiyoung)

#### INFO

2018 年 11 月 15 日 (木) -11 月 18 日 (日)

公式ウェブサイト : <http://kintominami.com/exhibition/thecryingwomen/>

「金藤みなみ 個展」にて展示した作品です。

Dongsomun [Seoul,Korea] Performance and Installation

Medium : tapestry(1400×1700(mm))

#### CREDIT

Play writing, Installation and Performance by KINTO Minami

Document by tomosi

Cooperation 조정민(CHO Jung-Min), 조준석(CHO Jun-seok), 최수빈(CHOI Subin),  
 강정인(KANG Jung-in), 김지영(KIM Jiyoung)

#### INFO

Thursday, November 15, 2018 - Sunday, November 18, 2018

Official Website : <http://kintominami.com/exhibition/thecryingwomen/>

These works were shown at the exhibition "KINTO MINAMI' s solo Exhibition".





#### STATEMENT

皮肉な社会で見知らぬ人 (The stranger) を愛する方法。

ソウルでの初めての個展です。過去のビデオインスタレーション作品と新しいパフォーマンスをお見せします。

マスク、新しいセクシズム、死者を蘇らせるお香、DMZ …、私があなたに示すすべては、見知らぬ人を愛する方法です。人々はしばしば見知らぬ人を恐れている、彼らは言う「それは私たちの仲間ではない」。見知らぬ人を受け入れるのは難しいですが、すべての問題は他の人と一緒に解決しなければなりません。私の答えは、外国人として、旅行者として、そして友人として、彼らと一緒に叫ぶことです。同時に、これらの関係を同じ価値として扱うことは非常に重要です。まず、少数派を排除する社会の仮面を作る方法を知り、顔、体、行動をエイリアンとして変え、それを動かす。私は常にエイリアンの側にいる。私の表現には皮肉のように感じさせる面があります。私のように社会の皮肉を憎み恐れているだけでなく、それに絶え間なく魅了されているのなら、私の芸術作品はあなたのためのものです。

#### STATEMENT

How to love the stranger in the ironical society.

This is my first solo exhibition in Seoul.

I will show you the old video installation works and new performance.

The mask, the new sexism, the back to life perfume, the DMZ..., everything I will show you is how to love the stranger.

People are often afraid of strangers, they say "It is not one of us. ", then accepting the stranger is hard, though all problem have to solve with other people. My answer is, to cry with them as the alien, as the tourist and as the friend. To treat those relationships as the same value at the same time is very important. First, I will know how to make the mask of the society which eliminate the minority, then I will change my face, body, behavior as an alien, and also move it. I am in the alien side always. There is a touch of irony in mine. If you're as terrified of an irony of fate as I am but also endlessly fascinated by it, then my art works is for you.

I will show you how to love the town. I cry and walk on the lands, under heavens for them. This is my answer.







